

セーフティプロモーション&セーフコミュニティ

～京都府亀岡市が日本で初のセーフコミュニティの認証取得～

わが国では、事故を「振ってわいた災難」と考えがちだが、世界保健機関（WHO）では、「適切な対策を講じれば、事故は予測可能である」という考えの下に、日常生活で発生するあらゆる外傷（不慮の事故だけでなく自殺や虐待なども含む。）を予防するための取組が進められている。このような取組がセーフティプロモーションであり、セーフティプロモーションの考えを実践するまちづくりの仕組みがセーフコミュニティである。

セーフティプロモーションとは人々の安全・安心な生活を確保するためには、疾病に対する予防や治療体制の確保が必要であることはもちろんであるが、不慮の事故、自殺、他殺などの外因死に対する備えも重要視されつつある。特に、若い世代についてみると、死因に占める外因死の割合が大きくなっており、15歳～34歳の階層では不慮の事故と自殺とで5割を超えている。

セーフティプロモーションとは、人々が平穏に暮らせるようにするため、事故や暴力、その結果としての外傷や死亡を、部門や職種の垣根を越えた協働による科学的に評価可能な介入により予防しようという取組である。

セーフコミュニティとは元々は、1970年代に、スウェーデンの地方都市で始まった住民の手で安全・安心な社会をつくらうというコミュニティ活動の手法を体系化したものである。

事故や怪我は偶然の結果ではなく、その偏在性に着目して発生原因を分析すればこれを予防できるという理念のもと、行政、地域住

死因別死亡者数

順位	死因	死亡者数(人)	備考
1	悪性新生物	329,314	
2	心疾患	173,024	
3	脳血管疾患	128,268	
4	肺炎	107,242	
5	不慮の事故	38,270	セーフコミュニティ で対応する課題
6	自殺	29,921	
7	老衰	27,764	
8	腎不全	21,158	
9	肝疾患	16,267	
10	慢性閉塞性肺疾患	14,357	

注 平成18年人口動態統計年報（厚生労働省）から作成。

各年齢層別死亡原因上位5（年齢階層別の死因に占める不慮の事故と自殺の割合）

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～4	不慮の事故 46.4%	心疾患 19.3%	悪性新生物 13.8%	肺炎 13.6%	肝疾患 2.7%
	不慮の事故 47.5%	悪性新生物 32.0%	肺炎 8.4%	心疾患 7.6%	脳血管疾患 2.8%
10～14	悪性新生物 33.6%	不慮の事故 26.8%	自殺 19.2%	心疾患 10.9%	脳血管疾患 6.6%
	不慮の事故 41.9%	自殺 34.6%	悪性新生物 13.1%	心疾患 6.3%	脳血管疾患 2.3%
20～24	自殺 52.4%	不慮の事故 27.9%	悪性新生物 9.6%	心疾患 6.4%	肺炎 1.8%
	自殺 53.6%	不慮の事故 20.0%	悪性新生物 13.4%	心疾患 8.4%	脳血管疾患 2.5%
30～34	自殺 43.7%	悪性新生物 20.0%	不慮の事故 15.7%	心疾患 11.2%	脳血管疾患 5.0%
	自殺 34.9%	悪性新生物 26.9%	心疾患 12.8%	不慮の事故 12.6%	脳血管疾患 7.1%
40～44	悪性新生物 33.3%	自殺 26.3%	心疾患 14.2%	不慮の事故 9.6%	脳血管疾患 9.4%
	悪性新生物 40.6%	自殺 18.5%	心疾患 14.7%	脳血管疾患 11.1%	不慮の事故 7.2%
50～54	悪性新生物 48.6%	心疾患 13.8%	自殺 12.5%	脳血管疾患 10.8%	不慮の事故 5.9%
	悪性新生物 52.9%	心疾患 14.2%	脳血管疾患 10.4%	自殺 9.1%	不慮の事故 5.4%
60～64	悪性新生物 55.8%	心疾患 14.8%	脳血管疾患 10.3%	自殺 5.4%	不慮の事故 4.7%
	悪性新生物 55.8%	心疾患 15.3%	脳血管疾患 10.6%	肺炎 5.1%	不慮の事故 4.3%
70～74	悪性新生物 52.7%	心疾患 16.4%	脳血管疾患 12.2%	肺炎 7.2%	不慮の事故 4.1%
	悪性新生物 45.2%	心疾患 18.2%	脳血管疾患 14.3%	肺炎 10.5%	不慮の事故 4.1%
80～84	悪性新生物 35.1%	心疾患 21.0%	脳血管疾患 16.5%	肺炎 14.5%	不慮の事故 3.9%
	悪性新生物 25.7%	心疾患 23.6%	肺炎 18.2%	脳血管疾患 18.2%	老衰 4.0%
90～94	心疾患 25.0%	肺炎 21.1%	脳血管疾患 18.1%	悪性新生物 17.6%	老衰 9.0%
	心疾患 25.7%	肺炎 22.4%	脳血管疾患 16.7%	老衰 15.9%	悪性新生物 11.6%
100～	老衰 28.2%	心疾患 23.6%	肺炎 22.3%	脳血管疾患 13.7%	悪性新生物 6.3%

注 平成18年人口動態統計年報（厚生労働省）から作成。

民，NPO，関係民間団体など多くの主体の協働により，全ての住民が健やかで元気に暮らすことができるまちづくりをすすめるものである。

具体的には，様々なデータや記録から，事故や怪我が「いつ」「どこで」「どのように」発生したのかを調べ，その原因を究明して，それを取り除くとともに，これまで，多様な主体によって個々ばらばらに進められている安全・安心に関する様々な取組を横断的に連携させて，地域の安全・安心という共通の目標に向かって協働して進めるというものである。

従来のわが国での取組みの違いとしては，地域の課題についてデータを用いて科学的に分析・評価し，地域の課題は地域で決定するとともに，実施主体が横断的に連携し，住民との協働により推進を図るという点にある。

セーフコミュニティの取組により，事故や怪我の減少だけでなく，地域のイメージアップ，地域の再生，更には，医療費の削減も期待することができる。



セーフコミュニティ推進のための外傷発生動向調査票 第1編

-本調査は，亀岡市内で発生した不慮の事故などによるけがの発生状況などを調査し，それをもとに事故やけがの予防を検討し実施しようとするものです。
-安全で安心なまちづくりを進めるため，本調査の実施について，ご理解とご協力をお願いします。
-この調査は本調査員によるもののみとし，本調査員に関する問い合わせや追加調査は行いません。
-なお，本調査員は全て無償で参加し，調査の結果については決して活用しません。

1 記入年月日	年 月 日	2 記入者	1 本人，2 同居者，3 医師，4 看護士
3 性別	1 男，2 女	4 年齢	歳
5 けがをした日	年 月 日	6 けがをした時間	午前・午後 時 分

7 けがをした場所の住所を記入してください。

8 けがをした場所の住所を記入してください。

9 けがをした場所の住所を記入してください。

10 けがをした場所の住所を記入してください。

11 けがをした場所の住所を記入してください。

12 けがをした場所の住所を記入してください。

13 けがをした場所の住所を記入してください。

14 けがをした場所の住所を記入してください。

15 けがをした場所の住所を記入してください。

16 けがをした場所の住所を記入してください。

17 けがをした場所の住所を記入してください。

18 けがをした場所の住所を記入してください。

19 けがをした場所の住所を記入してください。

20 けがをした場所の住所を記入してください。

21 けがをした場所の住所を記入してください。

22 けがをした場所の住所を記入してください。

23 けがをした場所の住所を記入してください。

24 けがをした場所の住所を記入してください。

25 けがをした場所の住所を記入してください。

26 けがをした場所の住所を記入してください。

27 けがをした場所の住所を記入してください。

28 けがをした場所の住所を記入してください。

29 けがをした場所の住所を記入してください。

30 けがをした場所の住所を記入してください。

31 けがをした場所の住所を記入してください。

32 けがをした場所の住所を記入してください。

33 けがをした場所の住所を記入してください。

34 けがをした場所の住所を記入してください。

35 けがをした場所の住所を記入してください。

36 けがをした場所の住所を記入してください。

37 けがをした場所の住所を記入してください。

38 けがをした場所の住所を記入してください。

39 けがをした場所の住所を記入してください。

40 けがをした場所の住所を記入してください。

41 けがをした場所の住所を記入してください。

42 けがをした場所の住所を記入してください。

43 けがをした場所の住所を記入してください。

44 けがをした場所の住所を記入してください。

45 けがをした場所の住所を記入してください。

46 けがをした場所の住所を記入してください。

47 けがをした場所の住所を記入してください。

48 けがをした場所の住所を記入してください。

49 けがをした場所の住所を記入してください。

50 けがをした場所の住所を記入してください。

51 けがをした場所の住所を記入してください。

52 けがをした場所の住所を記入してください。

53 けがをした場所の住所を記入してください。

54 けがをした場所の住所を記入してください。

55 けがをした場所の住所を記入してください。

56 けがをした場所の住所を記入してください。

57 けがをした場所の住所を記入してください。

58 けがをした場所の住所を記入してください。

59 けがをした場所の住所を記入してください。

60 けがをした場所の住所を記入してください。

61 けがをした場所の住所を記入してください。

62 けがをした場所の住所を記入してください。

63 けがをした場所の住所を記入してください。

64 けがをした場所の住所を記入してください。

65 けがをした場所の住所を記入してください。

66 けがをした場所の住所を記入してください。

67 けがをした場所の住所を記入してください。

68 けがをした場所の住所を記入してください。

69 けがをした場所の住所を記入してください。

70 けがをした場所の住所を記入してください。

71 けがをした場所の住所を記入してください。

72 けがをした場所の住所を記入してください。

73 けがをした場所の住所を記入してください。

74 けがをした場所の住所を記入してください。

75 けがをした場所の住所を記入してください。

76 けがをした場所の住所を記入してください。

77 けがをした場所の住所を記入してください。

78 けがをした場所の住所を記入してください。

79 けがをした場所の住所を記入してください。

80 けがをした場所の住所を記入してください。

81 けがをした場所の住所を記入してください。

82 けがをした場所の住所を記入してください。

83 けがをした場所の住所を記入してください。

84 けがをした場所の住所を記入してください。

85 けがをした場所の住所を記入してください。

86 けがをした場所の住所を記入してください。

87 けがをした場所の住所を記入してください。

88 けがをした場所の住所を記入してください。

89 けがをした場所の住所を記入してください。

90 けがをした場所の住所を記入してください。

91 けがをした場所の住所を記入してください。

92 けがをした場所の住所を記入してください。

93 けがをした場所の住所を記入してください。

94 けがをした場所の住所を記入してください。

95 けがをした場所の住所を記入してください。

96 けがをした場所の住所を記入してください。

97 けがをした場所の住所を記入してください。

98 けがをした場所の住所を記入してください。

99 けがをした場所の住所を記入してください。

100 けがをした場所の住所を記入してください。

詳細後に表紙が記入し直します。

13 けがは不慮の事故によるものでしょうか。

1 不慮の事故 2 意図的な傷害 3 暴力・虐待

14 けがの重傷度

1 軽微な外傷なし 2 けががなあるが治療を要せず 3 中等度で医学的処置を要する。

4 重傷で集中的治療を要する 5 重傷で死亡 (DOA)

15 診断後の状態

1 治癒完了 2 経過観察 3 退院治療 4 入院 5 他院へ紹介 6 死亡

16 けがの症状とけがをした箇所

● 傷の重さの低い箇所を 3か所まで 印を付け，最も重と認めて記入してください

1 顔面

2 頭部内出血

3 顔しんとう

4 打撲

5 脱臼，捻挫

6 骨折

7 切傷，裂傷

8 擦傷，挫傷

9 火傷

10 顔面以外傷 (目，鼻，耳，口唇，咽喉部，心臓，血管，肝，脾，腎，膀胱，消化器，肛門)

11 胸中傷

12 その他 ()

注 京都府及び亀岡市資料による。

WHOによる認証

WHOでは、セーフコミュニティの取組を進めるため、「WHOセーフコミュニティ協働センター」(スウェーデン)を設置し、認証の指標を設け、平成元年からセーフコミュニティに取り組む自治体を含むコミュニティの認証を行っている。平成19年までに、世界中で23カ国108の自治体が認証されており、わが国では、20年3月に京都府亀岡市が初めての認証を取得した。



注 亀岡市資料による。

亀岡市では、医療機関の協力を得て、10年間に市内で外傷が原因で亡くなった人の死因を分析し、同時に、市、自治会、NPO、大学などが連携して外傷予防に取り組む組織を立ち上げ、高齢者や要支援者がいる家などを記した「支え合いマップ」の作成、自殺防止の街頭活動や市民のメンタルヘルスケアなど多彩な外傷予防活動を実施している。

亀岡市以外にも、現在、青森県十和田市、神奈川県横浜市、厚木市等がセーフコミュニティを目指している。地域のつながりが希薄化し、地域の力が衰退しつつある今日、住民自らが考え、力を合わせて安全・安心な地域づくりをすすめるセーフコミュニティについて、今後更なる広がりが期待されている。

認証基準

1. 性別、必要となるすべての年齢層、環境及び状況をカバーする長期的かつ持続可能なプログラムを持つこと。
2. ハイリスクグループや環境を対象とするプログラム及び被害を受けやすい弱者グループのための安全を促進するプログラムを持つこと。
3. 外傷の頻度と原因を記録するプログラムを持つこと。
4. 地域のセーフティープロモーションに責任を持つ横断的な推進体制を構築し、住民との協働に基く活動基盤を持つこと。
5. プログラム、プロセス、変化の諸効果をアセスメントする、評価手段をもつこと。
6. 国内的、国際的なセーフコミュニティネットワークに参加していること。

注 京都府及び亀岡市資料による。